

2-3 保育所（園）・幼稚園

(1) 施設の概要、設置状況

保育所（園）・幼稚園は、伊賀市保育所条例及び伊賀市幼稚園条例に基づき、保育サービスを提供する場として22園が設置されています。

施設名称	地区	所管課	施設延床面積	駐車場	運営形態	設置根拠／条例	備考
佐那具保育所	上野	こども家庭課	453.40㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
猪田保育所	上野	こども家庭課	396.96㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	駐車場は私有地を借用
比自岐保育所	上野	こども家庭課	210.34㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
依那古保育所	上野	こども家庭課	635.00㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
依那古第2保育所	上野	こども家庭課	510.00㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	駐車場は私有地を借用
神戸保育所	上野	こども家庭課	543.48㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	駐車場（職員用）は私有地を借用
諏訪保育所	上野	こども家庭課	213.39㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
しろなみ保育所	上野	こども家庭課	869.00㎡	無	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
新居保育所	上野	こども家庭課	520.67㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
柘植保育園	伊賀	伊賀住民福祉課	721.75㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	保育園敷地の一部は私有地を借用
柘植第2保育園	伊賀	伊賀住民福祉課	929.61㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
西柘植保育園	伊賀	伊賀住民福祉課	888.59㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
壬生野保育園	伊賀	伊賀住民福祉課	736.74㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
希望ヶ丘保育園	伊賀	伊賀住民福祉課	818.34㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	駐車スペースは敷地内の空き地を利用（線引きなし）
島ヶ原保育所	島ヶ原	島ヶ原住民福祉課	739.00㎡	無	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
あやま保育所	阿山	阿山住民福祉課	1226.62㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
ともだ保育所	阿山	阿山住民福祉課	627.28㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
たまたき保育所	阿山	阿山住民福祉課	684.77㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
まるばしら保育所	阿山	阿山住民福祉課	608.04㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	
大山田保育園	大山田	大山田住民福祉課	1397.00㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	子育て支援センターを併設
さくら保育園	青山	青山住民福祉課	2111.20㎡	有	直営	児童福祉法第35条第3項 ／伊賀市保育所条例	子育て支援センターを併設
桃青の丘幼稚園	上野	教育総務課	1545.00㎡	有	直営	学校教育法第2条第1項 ／伊賀市立幼稚園条例	

表2-2-7 保育所（園）・幼稚園の一覧

なお、上記の公設の保育所（園）などの他に、上野地区を中心に私立保育園（所）が14園あり、市の保育サービスを補完しています。



さくら保育園



ともだ保育所

(2) 施設の状況

保育所（園）・幼稚園※36を構成している31棟の老朽化率の平均は47.3%となっており、建築年度は昭和50年代と平成の前半に集中しています。個々の建物の老朽化率にはばらつきがありますが、既に耐震改修が実施されている施設や、平成25（2013）年度に改築や耐震改修を予定している施設（しろなみ保育所、壬生野保育園）があります。

施設名称	建物名称	延床面積	建築年度	老朽化率	残存年数	主体構造	耐震性	大規模改修	建物性能
佐那具保育所	保育所	453.40㎡	昭和59年度	57.2%	20年	鉄筋コンクリート	有	無	2.9点
猪田保育所	保育所	396.96㎡	平成4年度	54.0%	15年	鉄骨造	有	無	2.7点
比自岐保育所	保育所	210.34㎡	平成1年度	63.0%	12年	鉄骨造	有	無	2.6点
依那古保育所	保育所	635.00㎡	昭和57年度	84.0%	5年	鉄骨造	有	無	2.1点
依那古第2保育所	保育所	510.00㎡	昭和50年度	100.0%	-2年	鉄骨造	有	無	1.5点
神戸保育所	保育所	543.48㎡	昭和61年度	72.0%	9年	鉄骨造	有	無	2.4点
諏訪保育所	保育所	213.39㎡	平成3年度	57.0%	14年	鉄骨造	有	無	2.7点
しろなみ保育所	保育所	341.00㎡	昭和55年度	90.0%	3年	鉄骨造	無	無 (H25予定)	1.4点
	保育室1	148.00㎡	昭和55年度	90.0%	3年	鉄骨造	無	無 (H25予定)	
	保育室2	229.00㎡	昭和55年度	90.0%	3年	鉄骨造	無	無 (H25予定)	
	調理室	151.00㎡	昭和55年度	99.0%	3年	鉄骨造	無	無 (H25予定)	
新居保育所	保育所	423.47㎡	平成9年度	59.8%	8年	木造	有	無	2.4点
	遊戯室	97.20㎡	平成9年度	59.8%	8年	木造	有	無	
柘植保育園	保育所	721.75㎡	昭和58年度	81.0%	6年	鉄骨造	有	無	2.2点
柘植第2保育園	保育所	929.61㎡	平成1年度	63.0%	12年	鉄骨造	有	無	2.6点
西柘植保育園	保育所1	845.39㎡	昭和57年度	84.0%	5年	鉄骨造	有	無	2.1点
	保育所2	43.20㎡	昭和57年度	84.0%	5年	鉄骨造	有	無	
壬生野保育園	保育所	610.87㎡	昭和50年度	100.0%	-2年	鉄骨造り	無 (H25予定)	無	1.6点
	プレハブ保育室	125.87㎡	平成3年度	72.2%	7年	軽量鉄骨造	有	無	
希望ヶ丘保育園	保育所	818.34㎡	平成6年度	48.0%	17年	鉄骨造	有	無	2.9点
島ヶ原保育所	保育所	541.00㎡	昭和58年度	59.4%	19年	鉄筋コンクリート	有	無	2.7点
	遊戯室	198.00㎡	平成5年度	78.2%	4年	木造	有	無	
あやま保育所	保育所	1226.62㎡	平成8年度	30.8%	32年	鉄筋コンクリート	有	無	3.4点
ともだ保育所	保育所	627.28㎡	平成1年度	46.2%	25年	鉄筋コンクリート	有	無	3.1点
たまたき保育所	保育所	684.77㎡	平成4年度	39.6%	28年	鉄筋コンクリート	有	無	3.2点
まるばしら保育所	保育所	608.04㎡	平成7年度	33.0%	31年	鉄筋コンクリート	有	無	3.4点
大山田保育園	保育所	1397.00㎡	平成18年度	8.8%	42年	鉄筋コンクリート	有	無	4.0点
さくら保育園	保育園1	1205.00㎡	平成15年度	32.2%	14年	木造	有	無	3.1点
	保育園2	500.00㎡	平成15年度	32.2%	14年	木造	有	無	
	保育園3	406.20㎡	平成15年度	32.2%	14年	木造	有	無	
桃青の丘幼稚園	園舎	1545.00㎡	平成21年度	3.0%	32年	鉄骨造	有	無	3.8点

表2-2-8 建物性能一覧表

※36 大山田東保育園は、平成25（2013）年4月1日より大山田西保育園に統合され「大山田保育園」となったため、閉園した大山田東保育園は白書の対象外としています。また、本白書における「大山田保育園」は、大山田西保育園の情報となっています。

保育所（園）・幼稚園の建物性能評価点を施設単位で比較した図2-2-15のグラフでは、依那古第2保育所（1.5点）、しろなみ保育所（1.4点）、壬生野保育園（1.6点）の建物性能評価点が、用途内平均2.6点よりも低くなっています。これは、施設の老朽化率が90%を超え、老朽化が進行しているためです。

一方、あやま保育所（3.4点）、まるばしら保育所（3.4点）、大山田保育園（4.0点）、桃青の丘幼稚園（3.8点）は、近年整備された施設のため、平均点を上回っています。さくら保育園（3.1点）も新しい施設ですが、主体構造が木造のため上記と比較して点数が低くなっています^{※37}。

個別施設を見てみると、しろなみ保育所、壬生野保育園の園舎の耐震性が低くなっているため、改築や耐震改修が予定されています。

なお、昭和50年代に整備された鉄骨造の保育所などは、今後数年で耐用年数を迎えることから、改築や大規模改修などの検討が必要となります。

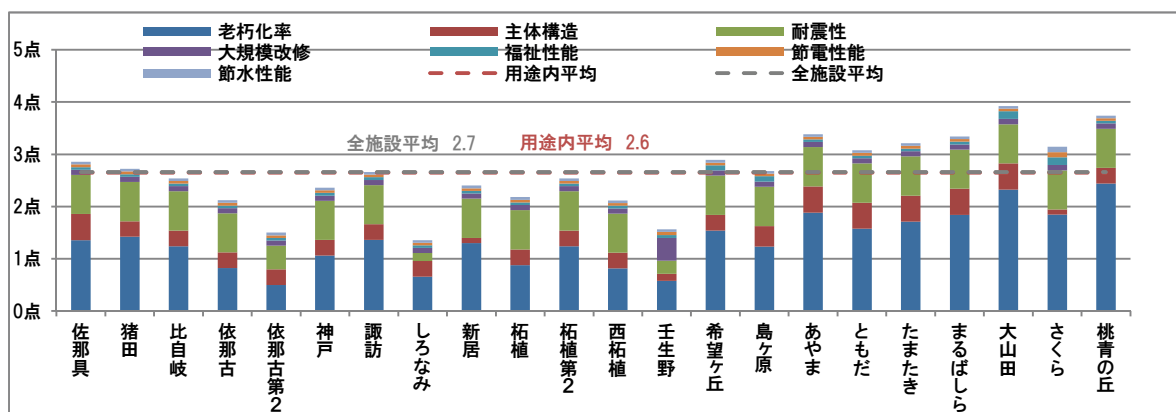


図2-2-15 建物性能評価点の比較（5点満点）

※37 財務省令に基づく、建物の用途構造別の耐用年数表（P18）より、園舎の法定耐用年数は、鉄筋コンクリートなどで47年、木造で22年となっています。

(3) 財務の状況

図2-2-16は、保有コストの過去3年間の推移と面積当たり保有コストを比較したグラフです。保育所（園）・幼稚園全体の保有コスト（115,276千円/年）のうち、光熱水費が占める割合が31%（35,423千円/年）と最も高く、次いで委託料の割合が12%（13,579千円/年）となっています。

また、面積当たり保有コストでは、猪田保育所、諏訪保育所、新居保育所が用途内平均（7.1千円/㎡）を大きく上回っています。

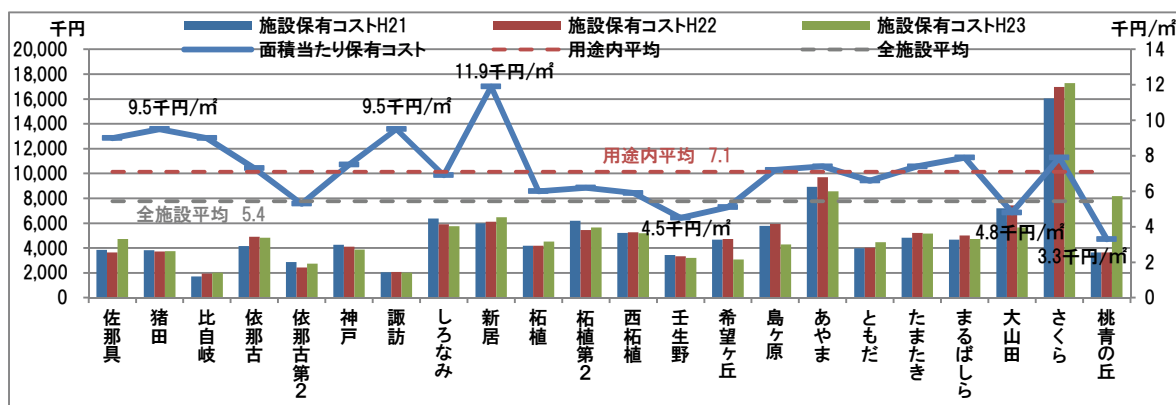


図2-2-16 施設保有コストの推移と面積当たり保有コストの比較

園児一人当たりの総コストについては、諏訪保育所、柘植第2保育園、まるばしら保育所が1,400千円/人で、用途内平均の1,036千円/人を超えています。一方で、あやま保育所、さくら保育園、桃青の丘幼稚園では700千円/人以下となっています。

なお、保育所（園）のみで比較すると、最も少ないあやま保育所（651千円/人）と最も多い諏訪保育所（2,188千円/人）では、約3.4倍の差が生じています。

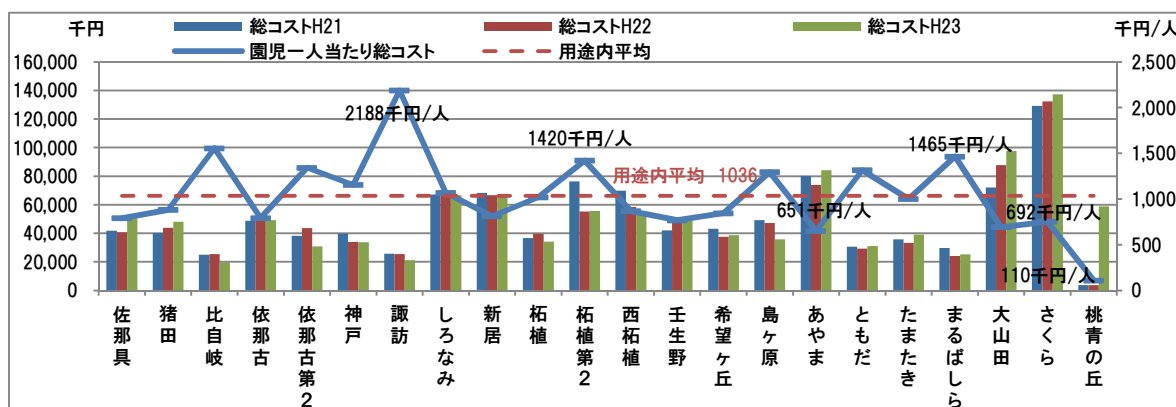


図2-2-17 総コストの推移と園児一人当たり総コストの比較

(4) 供給の状況

保育所（園）・幼稚園の平成23（2011）年度の園児数は11人から200人と、各園の規模には大きな差があります。また、過去3年間の園児数の増減率を比較すると、36.4%の増加から40.4%の減少と大きなばらつきがあります。

なお、施設全体の定員充足率の平均は69.5%となっています。

施設名称	園児数 H21	園児数 H22	園児数 H23	増減率	定員	子育て支援事業の利用者数	定員充足率
佐那具保育所	42 人	42 人	56 人	33.3%	75 人	39 人	62.2%
猪田保育所	53 人	51 人	50 人	-5.7%	60 人	37 人	85.6%
比自岐保育所	11 人	11 人	15 人	36.4%	30 人	24 人	41.1%
依那古保育所	72 人	64 人	62 人	-13.9%	75 人	74 人	88.0%
依那古第2保育所	35 人	37 人	28 人	-20.0%	40 人	19 人	83.3%
神戸保育所	46 人	42 人	31 人	-32.6%	90 人	36 人	44.1%
諏訪保育所	18 人	13 人	11 人	-38.9%	30 人	13 人	46.7%
しろなみ保育所	59 人	60 人	63 人	6.8%	60 人	34 人	101.1%
新居保育所	97 人	88 人	83 人	-14.4%	100 人	66 人	89.3%
柘植保育園	32 人	36 人	36 人	12.5%	80 人	10 人	43.3%
柘植第2保育園	45 人	42 人	44 人	-2.2%	80 人	—	54.6%
西柘植保育園	61 人	68 人	70 人	14.8%	90 人	—	73.7%
壬生野保育園	56 人	62 人	61 人	8.9%	70 人	—	85.2%
希望ヶ丘保育園	50 人	55 人	47 人	-6.0%	90 人	—	56.3%
島ヶ原保育所	57 人	44 人	34 人	-40.4%	60 人	—	75.0%
あやま保育所	114 人	116 人	122 人	7.0%	140 人	64 人	83.8%
ともだ保育所	32 人	30 人	23 人	-28.1%	70 人	11 人	40.5%
たまき保育所	32 人	33 人	36 人	12.5%	70 人	17 人	48.1%
まるばしら保育所	20 人	21 人	18 人	-10.0%	40 人	7 人	49.2%
大山田保育園	118 人	122 人	124 人	5.1%	120 人	89 人	101.1%
さくら保育園	177 人	172 人	177 人	0.0%	190 人	154 人	92.3%
桃青の丘幼稚園	180 人	184 人	200 人	11.1%	220 人	8 人	85.5%

表 2-2-9 保育所（園）・幼稚園の利用状況※38

※38 桃青の丘幼稚園の園児数は、平成22（2010）年から平成24（2012）年の5月1日時点の数値を採用しています。

保育所（園）・幼稚園については、定員充足率「定員に対する過去３年間の平均登録園児数※39」を指標として比較を行いました。個別施設の定員充足率を見ると、比自岐保育所、ともだ保育所で約４０％と平均の６９.５％よりも低くなっています。

一方で、しろなみ保育所、大山田保育園のように１００％を超えている施設もあります。

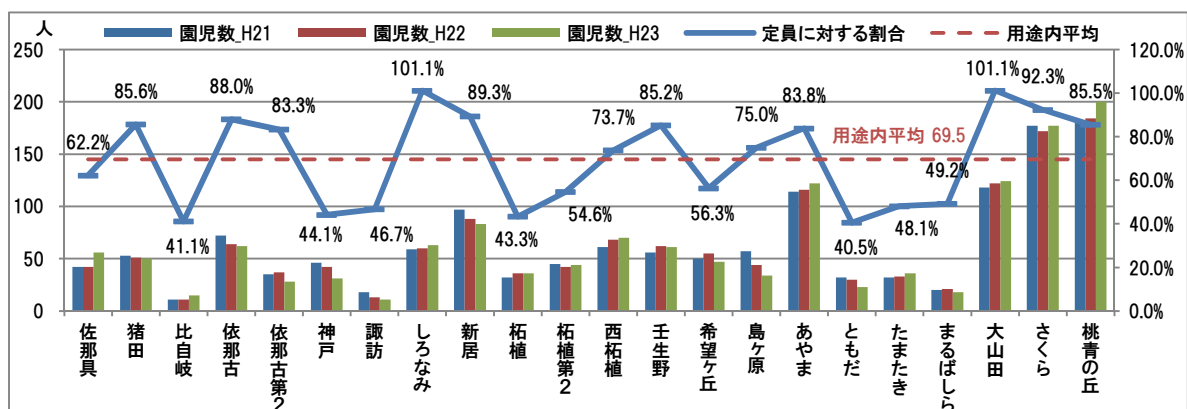


図２－２－１８ 園児数の推移と定員充足率の比較



大山田保育園



あやま保育所

※39 園児数は、一時預かりを除いた人数を記載しています。

(5) 施設配置状況及び需給の動向

保育所（園）・幼稚園は、サービス供給エリアを小学校区、需要者を0歳から4歳※40と設定しました。0歳から4歳人口の一人当たりの供給状況を比較すると、諏訪・まるばしら保育所（丸柱小学校区）が1.85、柘植・柘植第2保育所（柘植小学校区）が1.67と需給バランスが平均の1.00を超えています。

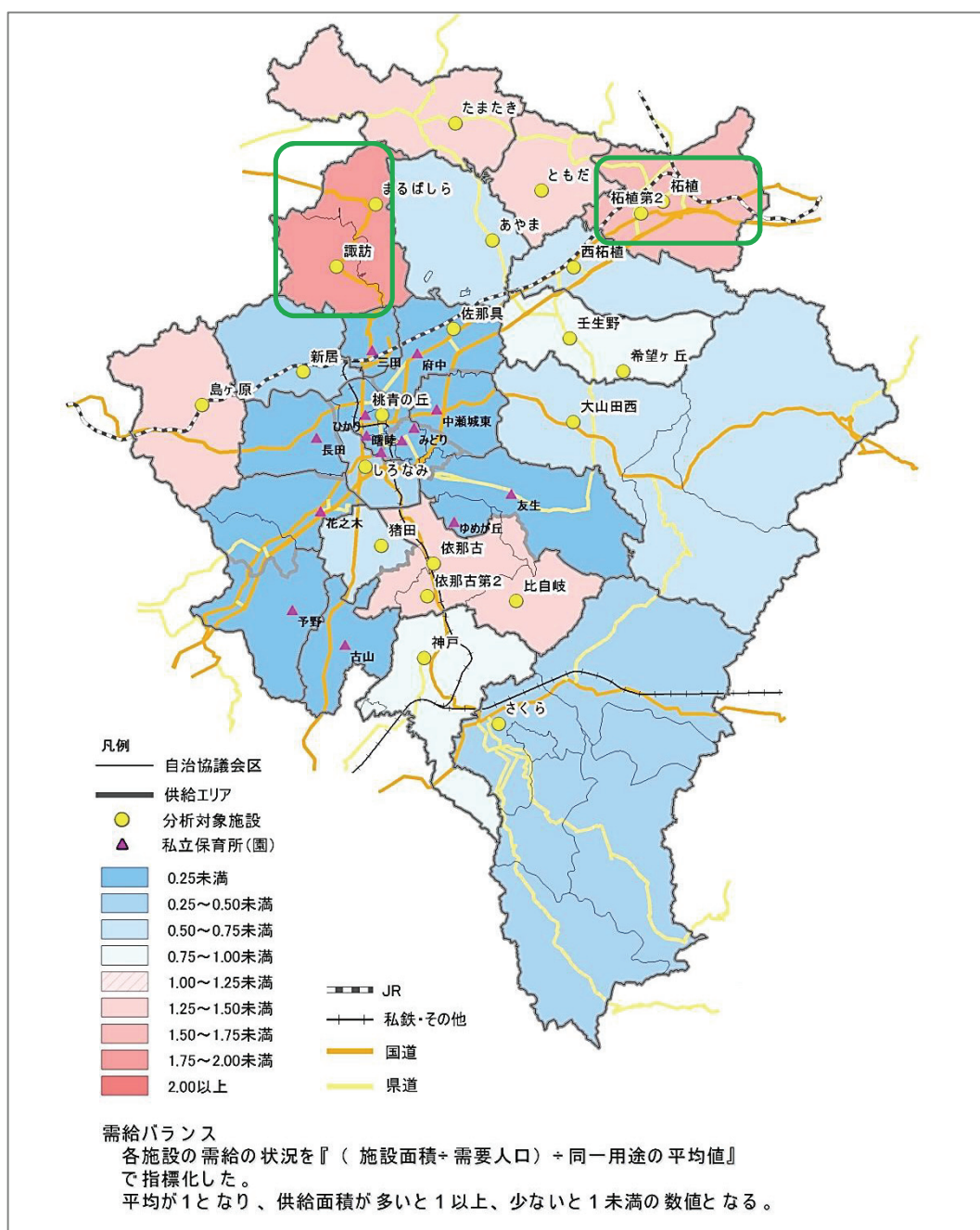


図2-2-19 需要人口（平成22年10月1日時点）一人当たりの施設供給量の比較

※40 保育所（園）・幼稚園の需要人口については、「0歳～4歳」の国勢調査の5歳階級別の年齢区分を採用しました。

また、需要人口（０～４歳）の将来推計結果からは、平成 22（2010）年度の3,776人から平成47（2035）年度には2,142人と、43.3%の減少が見込まれます。

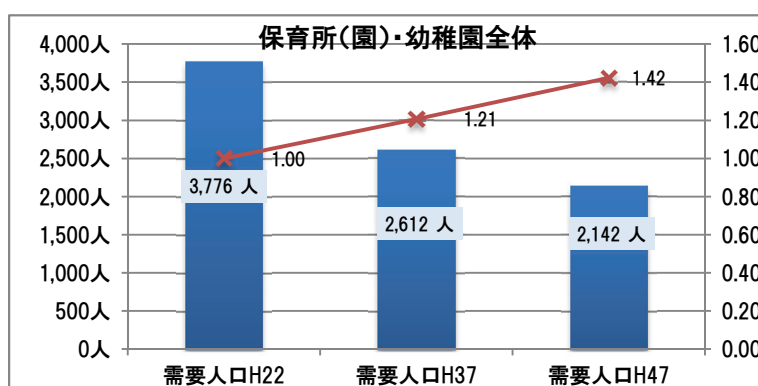


図 2-2-20 保育所（園）・幼稚園の需要人口と需給バランスの将来推計

また、個別エリアの将来推計結果からは、諏訪保育所及びまるばしら保育所（丸柱小学校区）の需給バランスが1.85から2.71、柘植・柘植第 2 保育所（柘植小学校区）では1.67から1.99へと増加することが見込まれます。

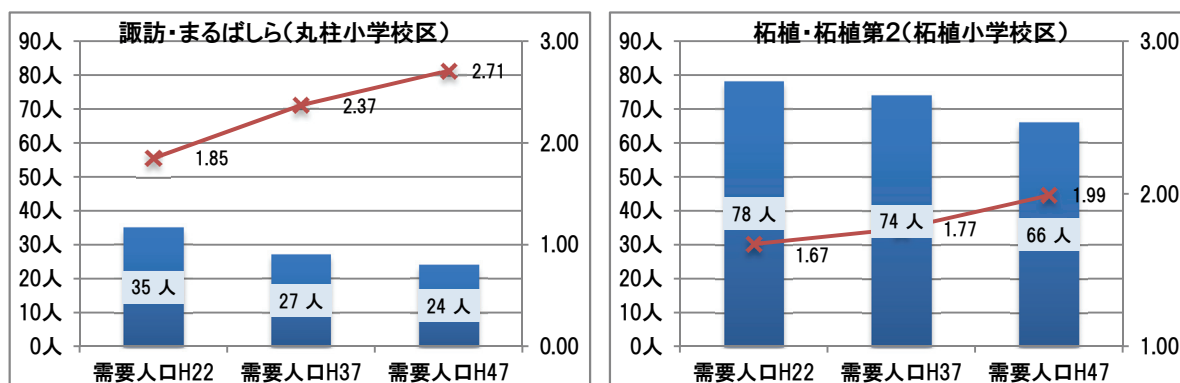


図 2-2-21 需要人口と需給バランスの将来推計

上記までの需給動向の推移から、丸柱、柘植小学校区を中心に、将来的には、需要人口に対して現在の供給量がより余裕傾向となっていくことが想定されます。

なお、神戸、鞆田小学校区においては、0～4歳人口の一時的な増加が見込まれていますが、将来的には減少する見込みとなっています。

(6) 現状と課題

<施設>

全体の老朽化率は47.3%と比較的良好ですが、全体の昭和50年代に整備された保育所など（31棟中12棟）については、改築や耐震改修が予定（5棟）されているなど、更新時期に差し掛かりつつあります。

なお本市では、平成21（2009）年11月の「伊賀市保育所(園)あり方検討委員会」の報告書^{※41}において、保育所（園）施設の国庫補助金に係る財産処分制限期間を踏まえながら、市は順次改築整備を行うべき、との考えを示しています。

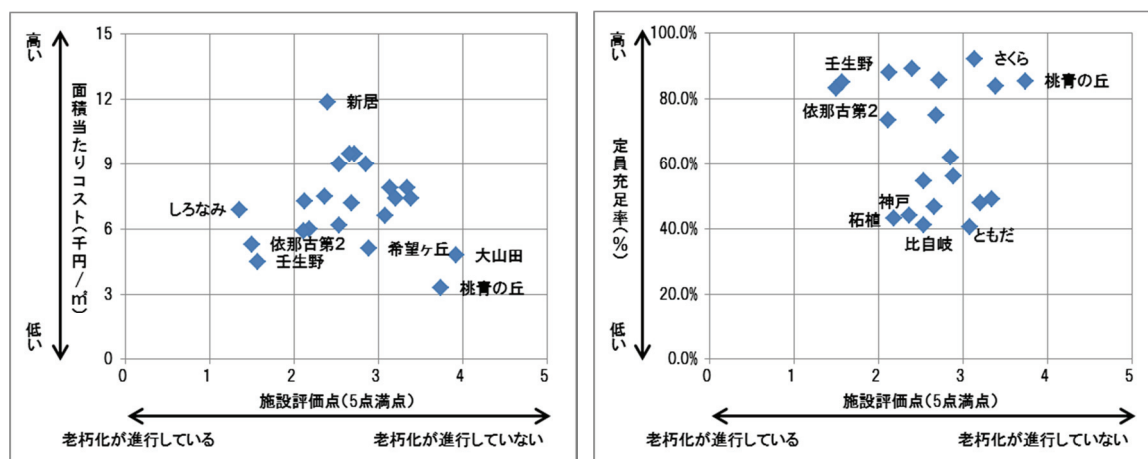
<財務>

園児一人当たり総コストでは最大3.4倍の差が生じているなど、一人当たりで比較した供給量に格差が発生しています。なお、報告書では、後述する保育所の中規模化を実現することで、運営経費の縮減が図られると試算をしています。

<供給・需給>

定員充足率が、50%未満の7施設については、稼働率の向上や規模の適正化に向けた取組が求められます。

なお、保育所（園）の統合に関しては、報告書において、「中規模園（110人以上）を基本とし、地域性に応じては、最小基準の小規模園（55人以上）、最大基準の大規模園（200人程度）を適正規模とする」指標を示しており、保育所の最適化に向けた取組が今後必要となります。



※41 伊賀市保育所(園)のあり方に関する提言書（最終案）

<http://www.city.iga.lg.jp/ctg/Files/1/52297/attach/teigen.pdf>